

拡販戦略

特集

TG INDIAの未来

皆で未来が見える会社を創ります。

Today's action will decide your future.
Let's make a company where we can see the future!

インド地域本部長 執行役員 BIJAY KRISHNA SHRESTHA



インドで26年の歴史があるTGは、これまでの市場変化および成長の経験を活かし、TGのグローバルで優れた経営、技術のノウハウ(日本・インド)を融合させ、さらなる発展を目指していきます。

4000人を超える従業員がOne Team, one Indiaを実感し、実現するために、2030年に向けたインド中長期の目標を皆で共有し、部門毎の具体的な目標値と

活動に落とし込んでいきます。

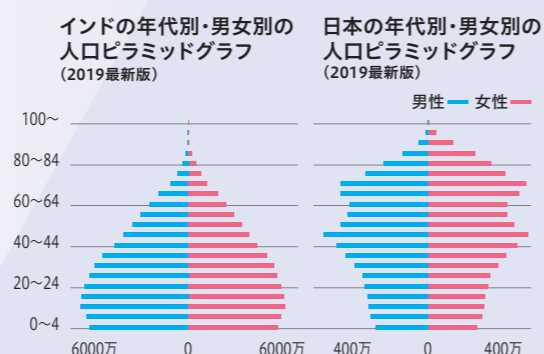
各工場、本社管理部門、パートナーであるUno Mindaがそれぞれ、高分子的に融合しそれぞれの機能を確実に果たし、お互いを尊重し合っていき、TGの柱となる地域にしていきます。また、魅力的かつ愛着のある会社づくりを目指します。

インド経済の発展

発展めざましいインドでは、現在人口が14億人に到達し、中国を超え世界トップとなっています。平均年齢は26歳で、人口の60%以上が雇用可能であり、今後数十年間の経済成長を支えることが期待されています。

また経済成長率は7%以上で推移しており、GDPは2024年の約4兆ドルから、2047年には19兆ドルに上昇すると予想され、2030年までに世界第3位の経済大国になるという予測もあります。現在のモディ政権は、最近の連邦選挙で再選し、“インフラと人的資本の迅速な開発を重点に経済政策の継続を強く推進する”と表明しました。さらにIT分野では、AIとデジタル化の推進

により、グローバルで経済成長をリードしています。

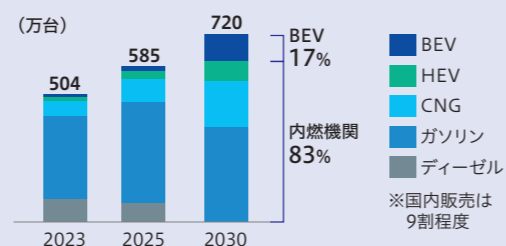


自動車産業の現況

インドの自動車産業は、二輪車/三輪車、乗用車(PV)/SUV、小型商用車(LCV)/、大型商用車(HCV)で構成されており、特にPV市場は現在の400万台から2030年に約700万台に成長すると予想されています。市場シェアはマルチ・スズキ(MSIL)が42%と圧倒的で、続くヒュンダイ(15%)、タタ(12%)、マヒンドラ(11%)、トヨタ(6%)、KIA(5%)となっており、上位4社で80%を占めています。また規制環境は、従来のガソリンからCNGまでの範囲で、あらゆるパワートレインを採用し、HEV/PHEVやBEVまで及ぶ多様な選択肢を残す環境にあります。そんな中、各OEMは2030年予想販売台数に対応するため、積極的なビジネス成長戦略を掲げています。廉価な車から良質な車へのシフトを成長戦略として掲げるMSILは、現在の約225万台から、2030年までに約400万台の生産能力確保

を目指しています。トヨタは南部の約34万台から、新ライン増設により2027年までに約44万台へ、また2030年に向けてインド中部での生産能力拡大を発表しており、インドトヨタ(TKM)を中東、東アジア、オセアニア地域の統括会社に指定し、新規工場を用いて、対応していきます。

インド生産台数推移 (乗用車)



TGインドの進むべき道

成長が顕著なインドの自動車市場において、TGインドは市場規模を超える事業成長を達成すべく、重点戦略である「顧客能増への対応」、「Make in India」、「アライアンスパートナー戦略」を掲げています。

急速に変化する市場環境(増産・拡販)に追従し、各OEMが安全のレーティング向上を目指してエアバッグの装着率アップを予定しています。それに伴い、顧客ニーズに対応する技術体制構築のため、北部にR&Dセンターを新設。2024年にニムラナ工場を拡張しました。さらに、2026年には南部でハロハリ新工場、西部でグジャラート工場拡張を計画しています。

人材面では、急速な事業成長を後押しするグローバル人材の育成が急務と考えており、経営層は豊田合成の人材育成制度および AOTS^{※1}を活用し、まずはリーダーを育成し、その後リーダーからナショナルスタッフ

へのボトムアップを図ります。技術者層については、若く優秀な人材を積極的に採用。ICT^{※2}制度を活用し、日本・タイ・アメリカで教育を行いスキルアップを図ります。またオペレーター層は、トヨタグループの知見を集約した教育道場で教育を実施し、インド全域に横展開してゆきます。

このほかにも、製品材料に関し原材料までこだわった真の現地化(Make in India)の推進や、インド事業のパートナーであるUno Minda社が行う事業とのシナジーやネットワークを活かした事業拡大ができることなども強みとして捉え、今後もインドにおける事業のさらなる発展を目指し、取り組んでゆきます。

※1 Association for Overseas Technical Scholarship
※2 Internal Company Transfer



豊田合成テクニカルセンターインド



ハロハリ工場

CSR活動は、安全、環境、健康、教育を4つの柱として活動しています。

安全

インドでは交通事故での死亡者が世界一のため、社会で安全の意識が高まるように大学や自動車学校で学生や一般向けに交通安全の講習、ヘルメットの配布を行っています。

環境

環境保全のため、涸れている湖の再生化。自然保護と低所得者の収入のため、近隣地域へココナツの木を植樹し、地域活性化を図っています。

健康

近隣地域への飲料水施設と公衆Ecoトイレの設置、白内障手術費用のサポートや車いすの寄贈を行い、世界の貧困層の約25%を抱えるインドの医療問題に少しでも貢献できるような活動を行っています。

教育

会社周辺地域、村の教育に対するサポートを行っています。村の自立化発展のため、男女平等に向けた社会における女性活躍の推進、女性が活躍できる環境づくりの助けをしています。

